

A. 主な動き

1. 内政

- ・23日、憲法裁判所は、共産党の「鎌と槌」のシンボル使用を禁じる法律の憲法は違憲であるとする共産党による9月3日付判断請求の審理を実施し、ベニス委員会及びOSCEによる評価を受けた後に同裁判所は同法の憲法適合性の判断を行うとし、請求を棄却した旨発表。
- ・26日、議会は、議会発足から10日目以降の新会派の結成を禁じる自由党発案の法案を第二読会で採択。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・25日、ラザル副首相兼経済相は、2012年のGDP成長率を3%から1%に下方修正するとともに、2013年のGDP成長率を以前発表したものより1.5%低い3.5%とする旨を予測、農業部門で生産を20～25%減少するかもしれない、これにより直接、GDP成長率2.5%の減少につながり、本年起こった干ばつの損失を取り戻すには2～3年はかかるだろう旨発言。

▼農業

- ・22日、国家統計局は、2011年との比較で、2012年1-9月期の農業生産高が21.6%減少した旨を報告。同局は、この減少は農業部門において主に今夏の干ばつの影響であり、結果として穀物の生産高は33%の減少である旨併せて報告。
- ・23日、ブマコフ農業食品産業相は、本年9月期までの農業生産高が昨年比22%減であるが、モルドバは食糧安全のためのすべての必要な対策を行うため、食糧危機には直面しないだろう旨発言、夏の干ばつにより、戦略的に重要な小麦、大麦、コーン及びひまわりは深刻な影響を受けたが、現状、パンあるいは植物油の不足危機には直面しておらず、冬用の小麦は通常に成長している旨言及。

3. 外政

▼レアンカ副首相兼外務・欧州統合相の訪独

- ・22日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、ベルリンにおける「EU・モルドバ」フォーラムに出席し、モルドバの欧州統合路線及びモルドバ・ドイツ関係の現状等に関し発言。
- ・22日、レアンカ大臣は、フリードリッヒ独内相と会談し、司法及び内務分野におけるモルドバの改革に関し協議。同日、

レアンカ大臣は、フィーレ拡大・近隣政策担当欧州委員との会談においてモルドバ・EU関係の現状及び11月末のパローゾ欧州委員会委員長とのモルドバ訪問の準備状況等に関し協議。

- ・23日、レアンカ大臣は、ヴェスターヴェレ独外相兼副首相と会談し、8月のメルケル独首相によるモルドバ訪問の成果、モルドバの国内改革実施及び沿ドニエストル紛争解決におけるドイツの役割等に関し協議。ヴェスターヴェレ外相は、ドイツはモルドバの欧州統合路線を支持する旨発言。

▼その他

- ・22日、フィアト首相は、メドベージェフ露首相と電話会談し、ロシアからの天然ガスのモルドバへの供給に関する新契約に関し協議。両首相は、締結のための交渉を継続することで合意。
- ・23日、フィアト首相は、モルドバ訪問中のビョーリング・スウェーデン貿易相と会談し、両国経済関係に関し意見交換。フィアト首相は、モルドバは社会・経済及びエネルギー計画実現のため年間1,300万ユーロの支援をスウェーデンから受けており、スウェーデンは最大のドナー国である旨発言。

4. 沿ドニエストル

- ・22日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、次回「5+2」者交渉は11月27日～30日にダブリンで開催される旨発表。
- ・23日、ラヴロフ露外相は、沿ドニエストルにおいてキリル文字の使用等を強制する言語・教育政策が採用された問題につきロシア政府に欧州人権条約違反の責任を認める19日付欧州人権裁判所判決に関し、ロシアは沿ドニエストルの教育制度に影響を与えられる状態になく、判決は明らかに政治化されたものである旨発言。
- ・23日、沿ドニエストル「外務省」は、ロシアが主導するユーラシア同盟への統合が優先課題であるとする沿ドニエストル新外交政策の基本理念案を承認。
- ・25日、国家再統合局は、沿ドニエストル地域からロシア軍用ヘリコプター8機を搬送する準備のため、ロシア空軍機An-72がロシア・キシナウ・ティラスポリのルートで23日（往路）及び25日（復路）に試験飛行を行った旨発表。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」（ロシア語読み）を暫定的に「キシナウ」（モルドバ語読み）と表記しています。（了）